

# 平成18年3月期 決算説明会資料

---

曾田香料株式会社

代表取締役社長 光安哲夫

# 目次

---

- I. 会社概要
- II. 平成18年3月期 決算概要(連結)
- III. 平成18年3月期 決算概要(単体)
- IV. 平成19年3月期 業績予想
- V. 新中期経営課題(平成18~20年度)の概要

# I . 会社概要

# 会社概要

---

## 1) 経営理念

「香料を中心とする各種製品の開発と生産を進め、  
これを顧客に販売することを通じて、社会に奉仕する」

## 2) 事業所

本社(東京都中央区)、大阪支店、札幌営業所  
野田工場(千葉県野田市)、郡山工場(福島県郡山市)

## 3) 関係会社

連結子会社	岡山化学工業(株)、(株)ソダアクト
持分法適用関連会社	台湾曾田香料(股)、遠東香料(股)
非連結子会社	曾田香料(昆山)有限公司

## 4) 従業員数 (H18年3月末 有価証券報告書基準)

連結	348名
単体	285名

## 5) 事業内容

フレグランス（香粧品香料）

シャンプー・リンス、石鹸、芳香剤、入浴剤等に使用



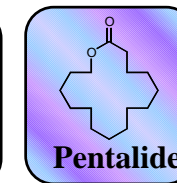
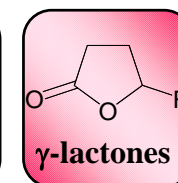
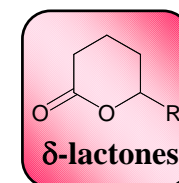
フレーバー（食品香料）

飲料、菓子、調味、たばこ、飼料等に使用



合成香料・ケミカル

- ・ラクトン類、大環状ムスク等のフレグランス・フレーバー素材
- ・ガス着臭剤（都市ガス・LPG用）
- ・医薬・農薬中間体、電子材料等



## Ⅱ. 平成18年3月期 決算概要(連結)

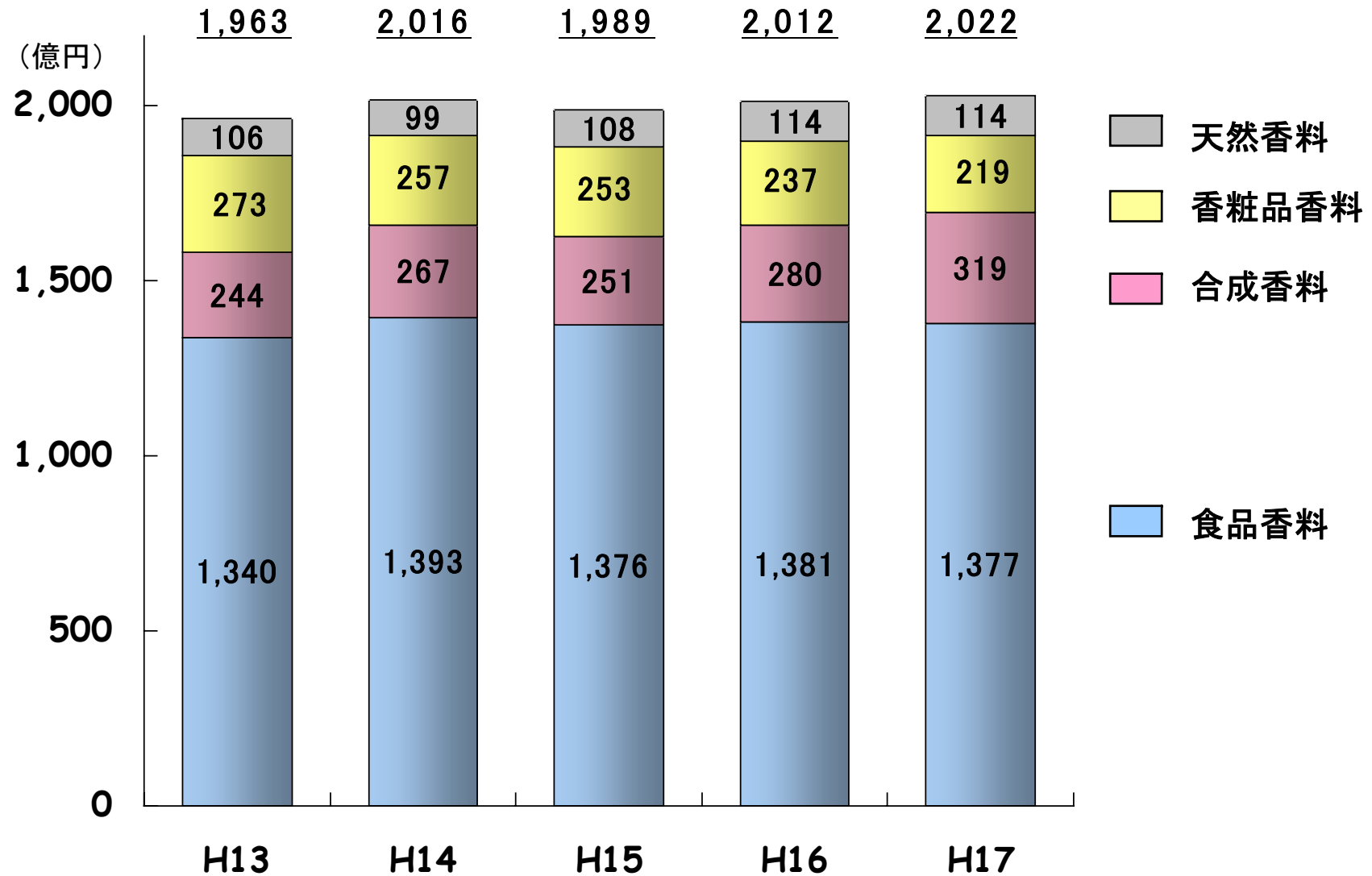
# 連結業績の概要(収益)

億円

	前期		当期		増減	
	H17/3	構成比(%)	H18/3	構成比(%)	金額	%
売上高	184.8	100.0	185.0	100.0	+ 0.2	+0.1%
売上原価	132.3	71.6	129.7	70.1	▲ 2.6	▲2.0%
売上総利益	52.6	28.4	55.2	29.9	+ 2.6	+4.9%
販管費	38.7	20.9	38.4	20.8	▲ 0.3	▲0.7%
営業利益	13.9	7.5	16.9	9.1	+ 3.0	+21.8%
経常利益	13.9	7.5	17.2	9.3	+ 3.3	+23.5%
税引前当期純利益	13.8	7.5	17.0	9.2	+ 3.2	+22.9%
当期純利益	8.7	4.7	10.5	5.7	+ 1.8	+20.5%

## 国内香料市場推移(製品販売金額ベース)

(日本香料工業会 販売統計より)





## 部門別概況(1)

### フレグランス

国内向けでは化粧品用香料をはじめ全般的に低調。  
アジア向け輸出用調合香料も前年同期を若干下回り、  
全体で減収。

売上高 ▲7.0% (製品 ▲6.8%、商品 ▲7.5%)

【国内香料業界の前年比伸長率(H17年 製品販売金額ベース)】

国内平均

フレグランス ▲7.5%

## 部門別概況(2)

### フレーバー

たばこ香料は市場縮小の影響により国内市場向けが、低調に推移。

食品用香料も飲料用が前年の猛暑効果の反動もあり、伸び悩み減収。

**売上高 ▲3.6% (製品 ▲4.8%、商品 ▲2.2%)**

**【国内香料業界の前年比伸長率(H17年 製品販売金額ベース)】**

国内平均

フレーバー ▲0.3%

## 部門別概況(3)

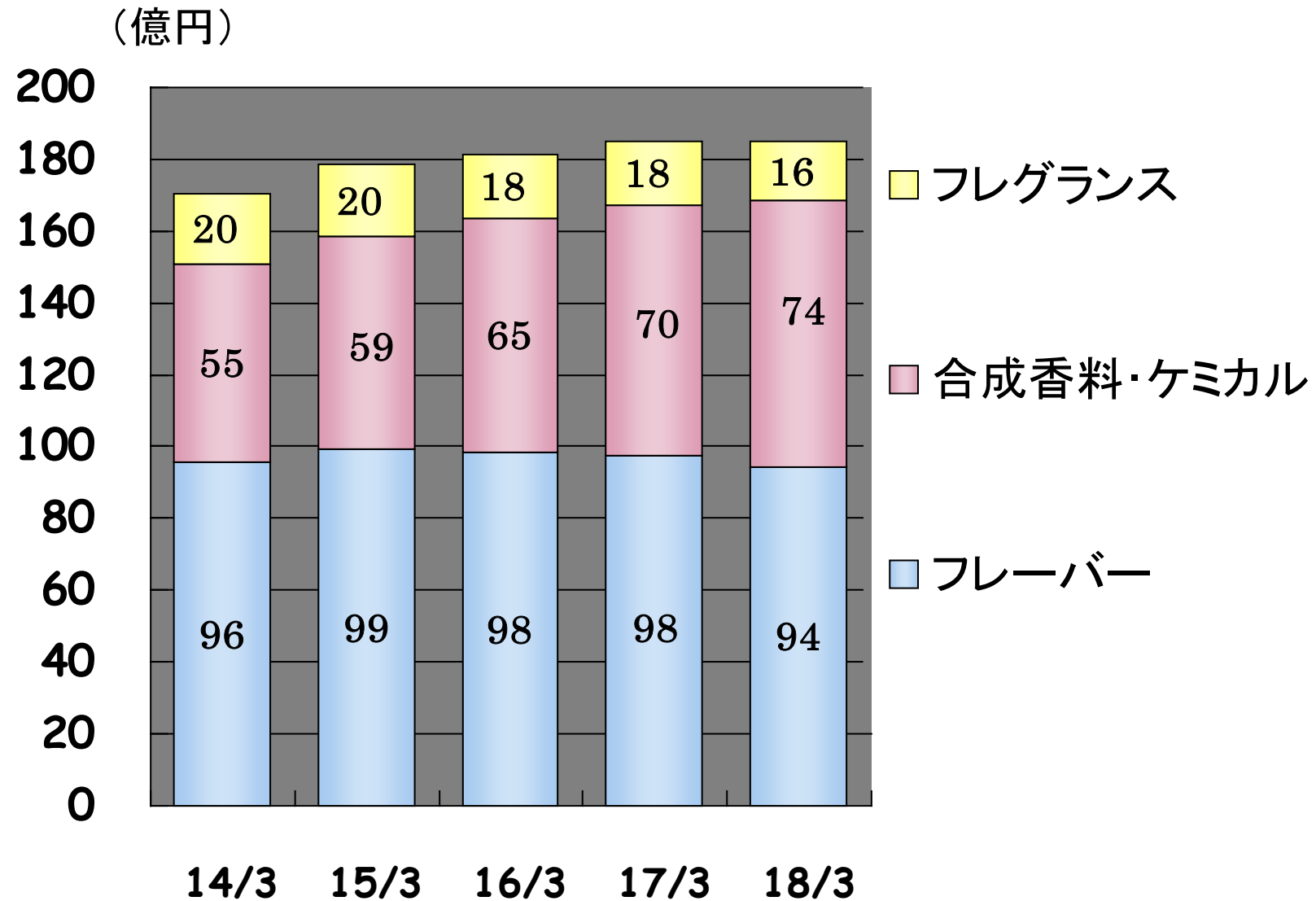
---

### 合成香料・ケミカル

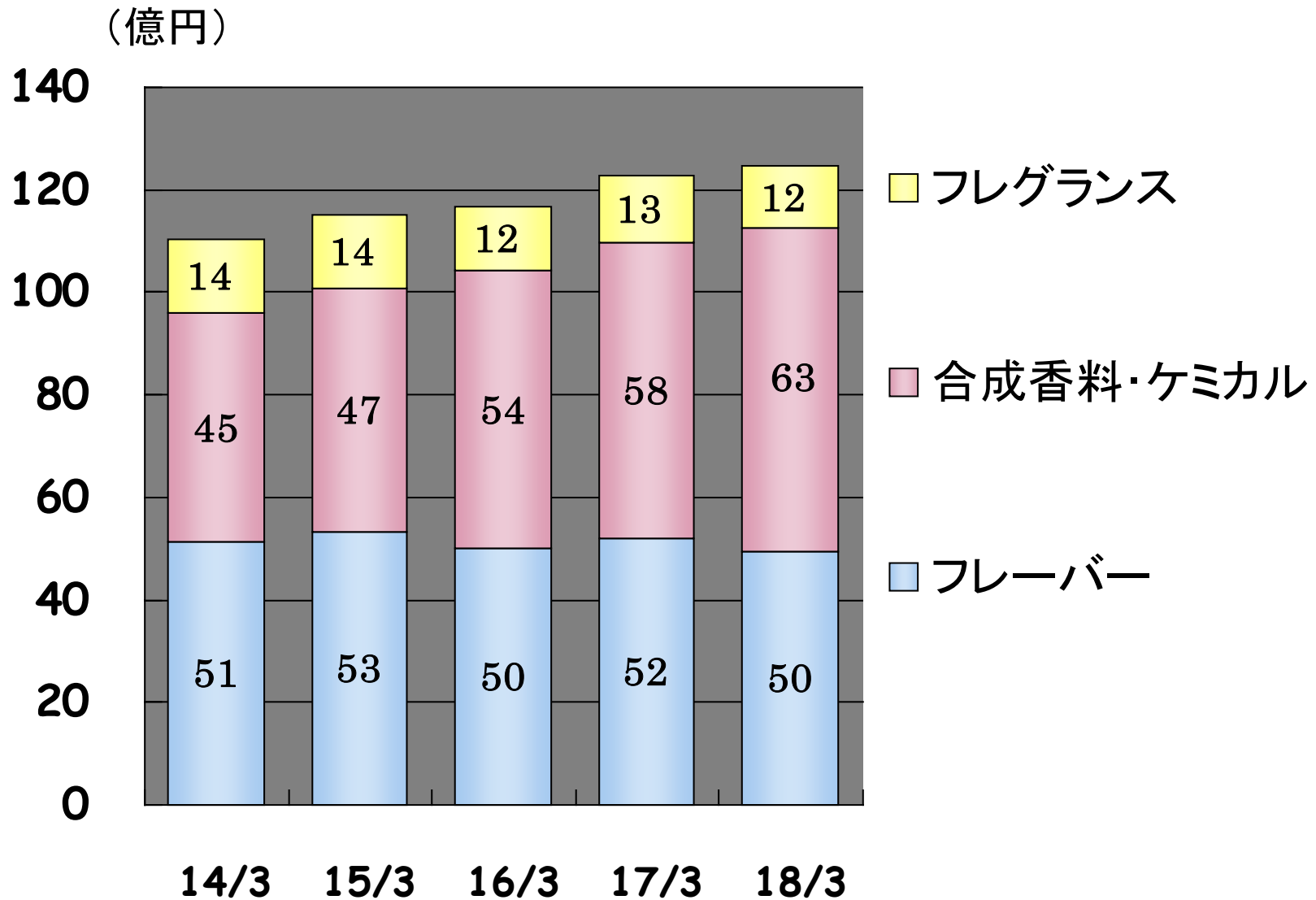
合成香料は主力のラクトン類が海外向けを中心に好調。  
ケミカルも、化成品や着臭剤が伸び、全体でも増収。

売上高 +7.0% (製品+9.2%、商品▲3.9%)

# 部門別売上高推移



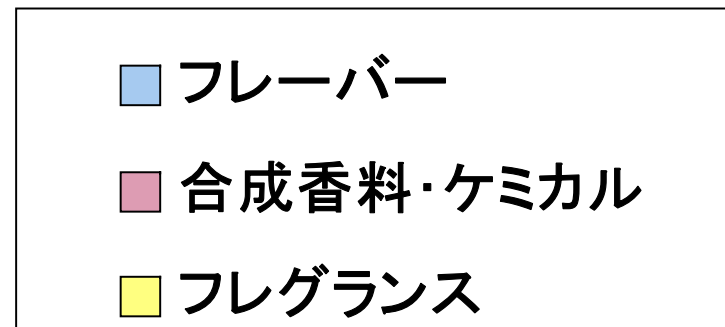
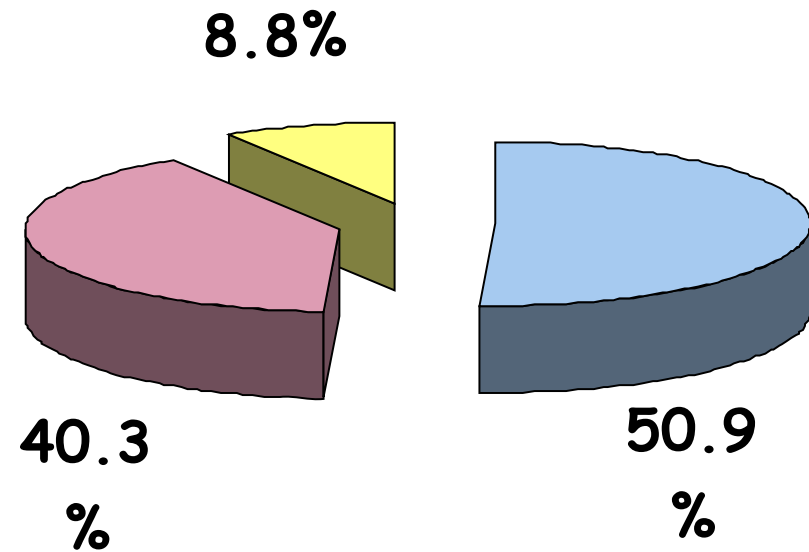
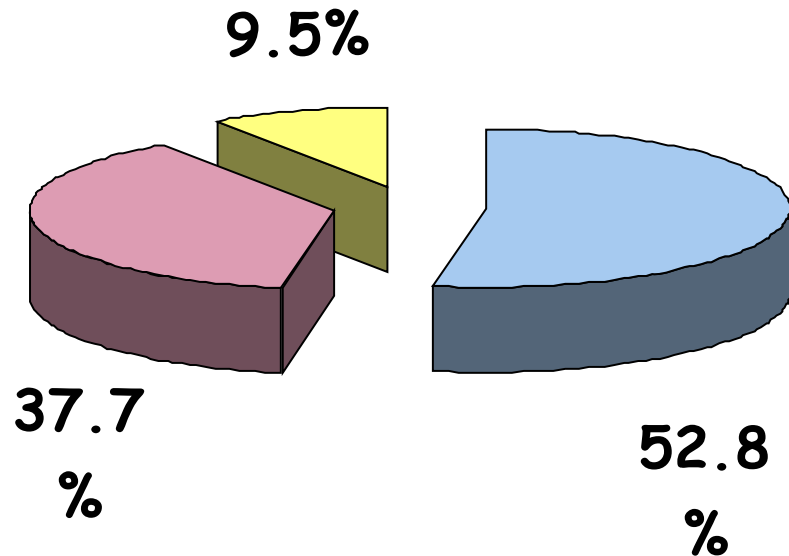
# 部門別売上高推移(製品)



# 部門別構成比率

H18/3

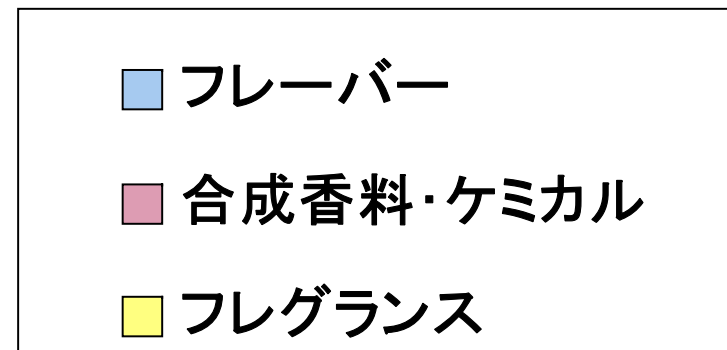
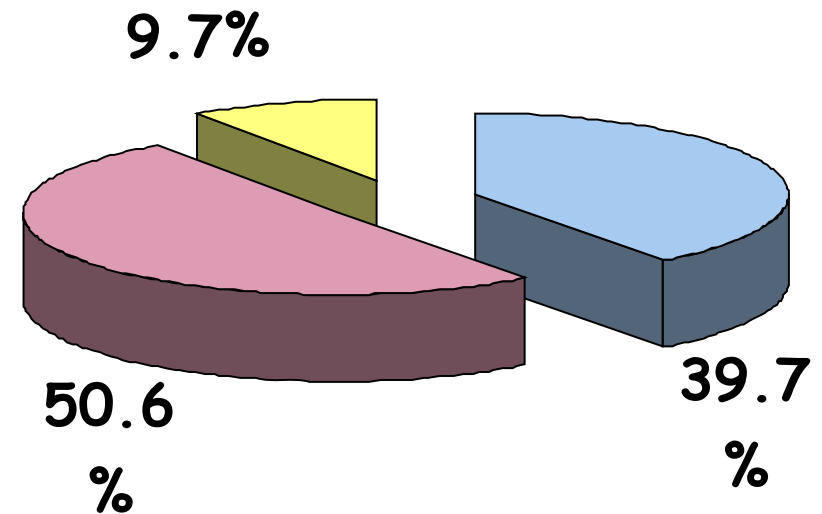
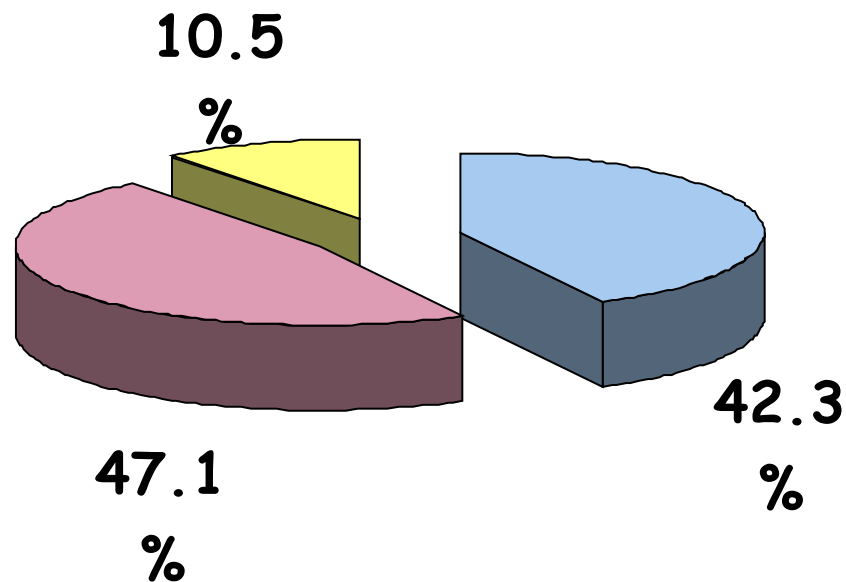
H17/3



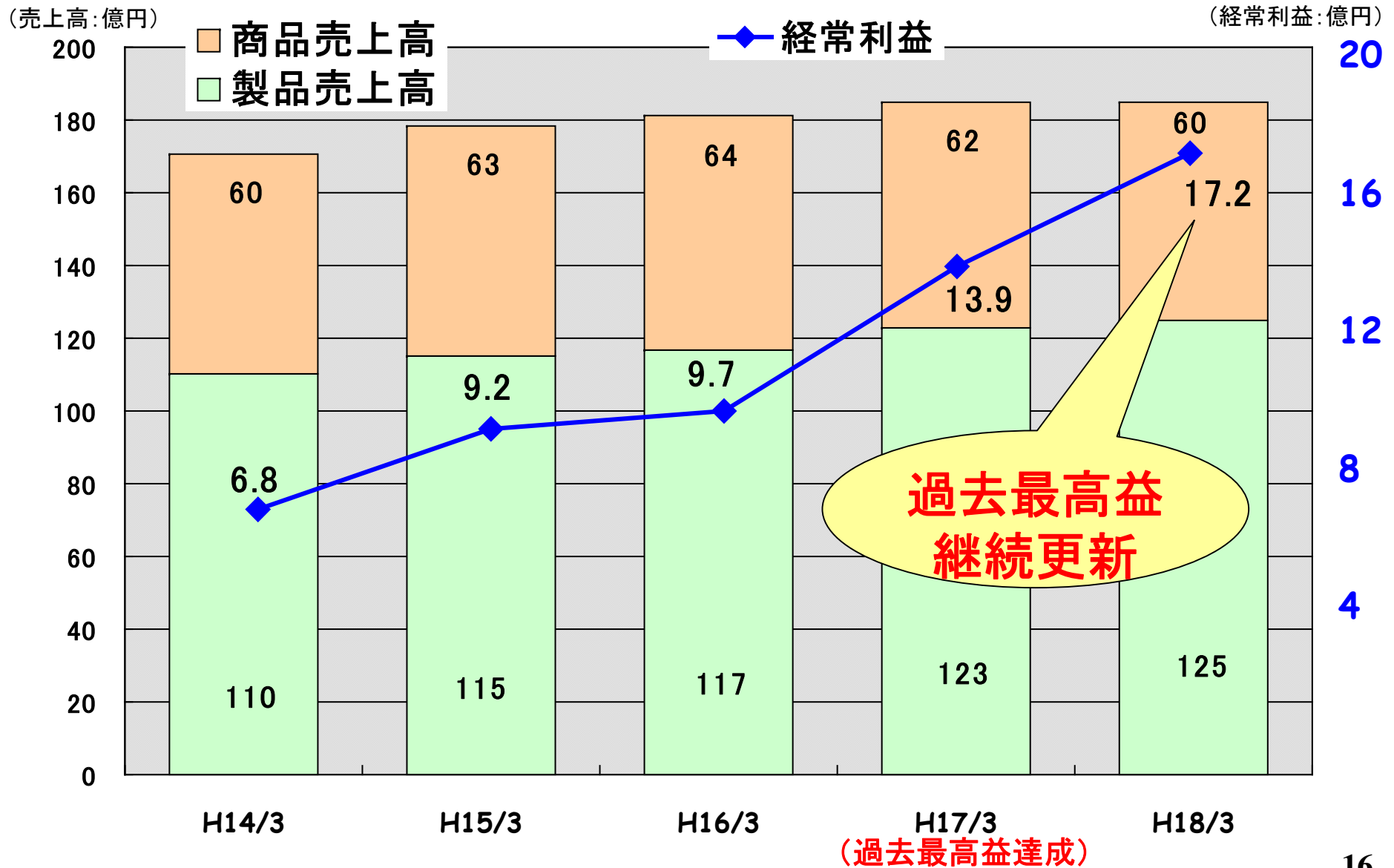
# 部門別構成比率(製品)

H18/3

H17/3



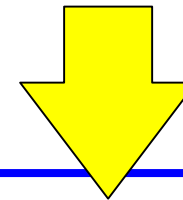
# 製品・商品売上高および経常利益推移





# 経常利益変動要因分析

H17年3月期	13.9億円	}	3.3億円増
H18年3月期	17.2億円		



## 増益要因

- ①収益構造の改善による増益
  - ・高付加価値品へのシフト、生産・販売数量増
- ②トータルコスト競争力の更なる強化
  - ・製造コストダウン、営業費削減等

## 連結業績の概要(財政状態)

億円

	H17/3	H18/3	増減
総資産	164.6	169.1	+4.5 (+2.7%)
株主資本	72.2	82.9	+10.7 (+14.9%)
1株当たり 株主資本	720.40円	827.89円	+107.49円 (+14.9%)

	H17/3	H18/3	増減
ROE	12.8%	13.5%	+0.7ポイント
株主資本比率	43.8%	49.0%	+5.2ポイント
1株当たり 当期純利益	85.66円	103.39円	+17.73円 (+20.7%)

# 貸借対照表(資産の部)

億円

	H17/3	H18/3	増 減	特記事項
資 産 合 計	164.6	169.1	+ 4.5	
流動資産	99.9	101.3	+ 1.4	手元資金の増加等
有形固定資産	44.3	46.9	+ 2.6	設備投資の増加等
無形固定資産	1.8	1.3	▲ 0.5	ソフトウェアの償却等
投資その他	18.5	19.6	+ 1.1	上場株式の評価差益増加等

# 貸借対照表(負債・資本の部)

億円

	H17/3	H18/3	増 減	特記事項
負 債 合 計	92.4	86.2	▲ 6.2	
流動負債	71.3	58.2	▲ 13.1	社債償還、短期借入金返済等
固定負債	21.1	28.0	+ 6.9	長期借入金借入等
少 数 株 主 持 分	—	—	—	
資 本 合 計	72.2	82.9	+ 10.7	利益剰余金の増加、 有価証券評価差額金の増加等
有利子負債残高	33.0	30.0	▲ 3.0	収益伸長により有利子負債を 圧縮

# キャッシュ・フローの状況

億円

	H17/03	H18/03	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	15.4	14.7	▲ 0.7
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 5.2	▲ 8.2	3.0 増
フリー・キャッシュ・フロー	10.2	6.5	▲ 3.7
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 7.0	▲ 4.0	+ 3.0
現金及び現金同等物の増加額	3.2	2.4	▲ 0.8
現金及び現金同等物の期末残高	18.5	20.9	+ 2.4

	H16/3	H17/3	H18/3
自己資本比率(%)	39.5	43.8	49.0
時価ベースの自己資本比率(%)	31.2	46.5	68.0
債務償還年数(年)	2.5	2.1	2.0
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	45.1	53.1	59.6

## 設備投資・減価償却費・試験研究費

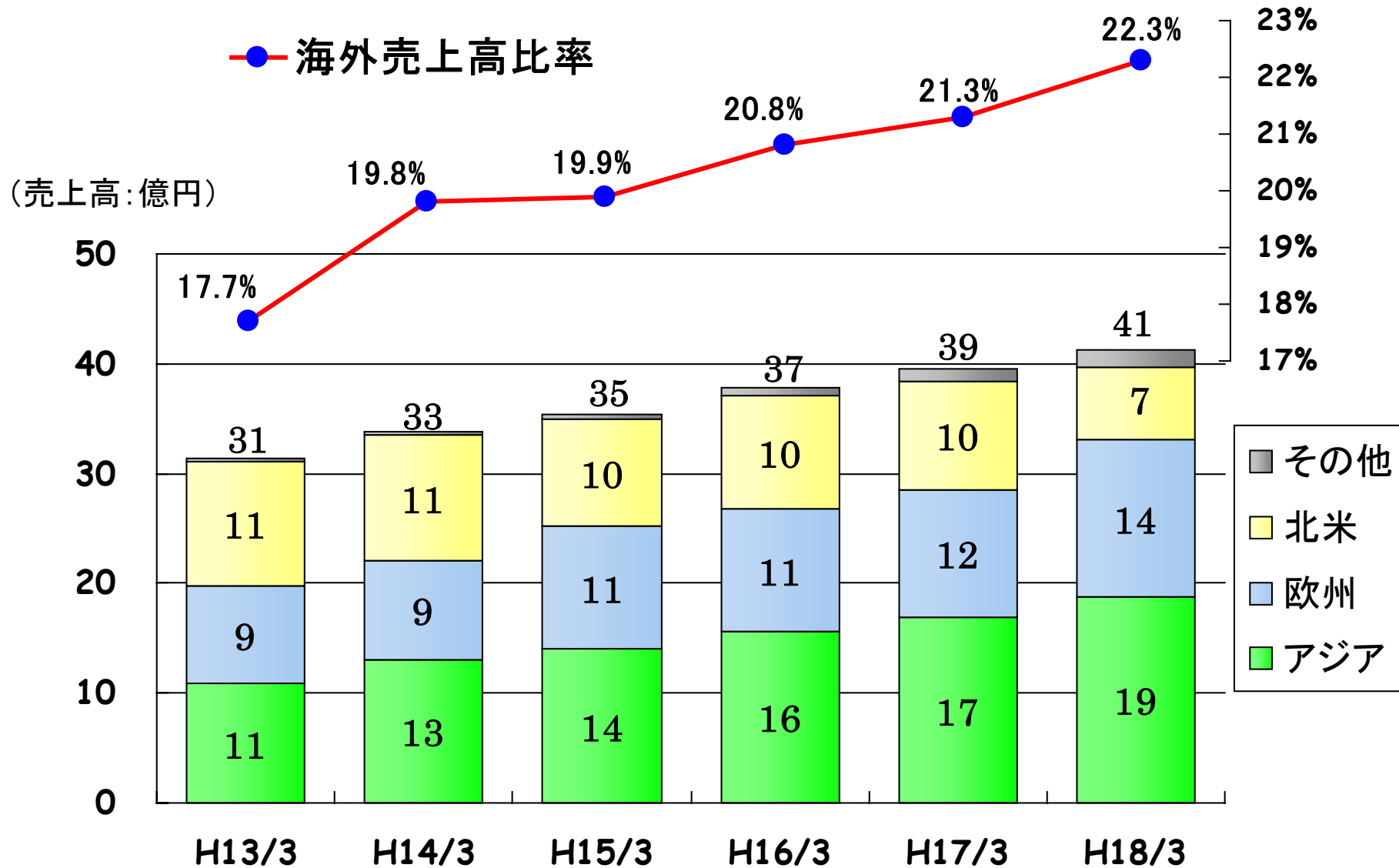
	H17/3	H18/3	増減
設備投資	3.8	9.0	+ 5.2
減価償却費	6.8	6.9	+ 0.1
試験研究費	10.2	10.3	+ 0.1

億円

※主な設備投資

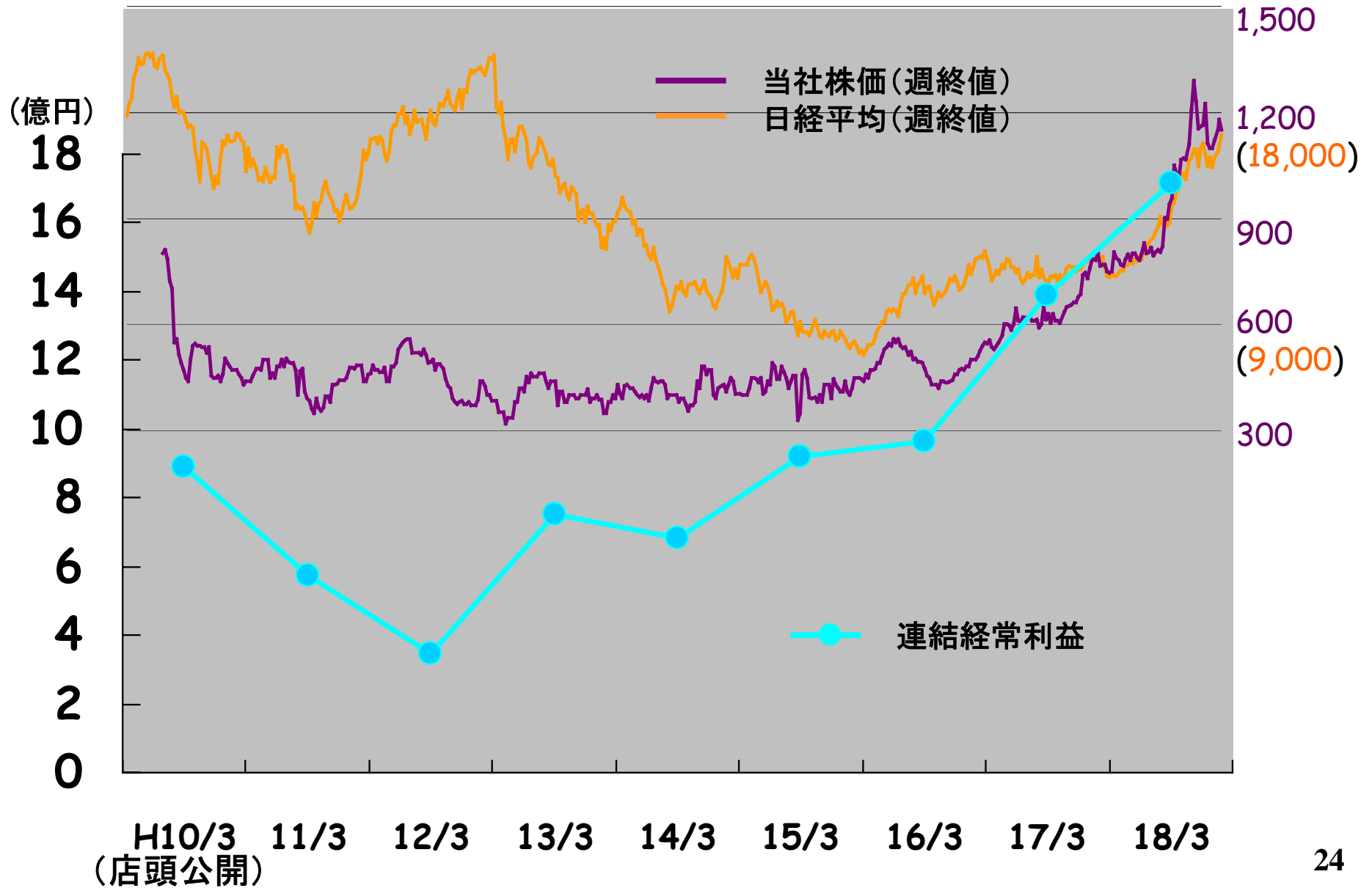
野田工場ケミカル製品製造設備 4.6億円

# 海外売上高の伸長



# 経常利益(連結)と株価推移

当社株価 単位:円  
(日経平均 単位:円)





## Ⅲ. 平成18年3月期 決算概要(単体)

# 単体業績の概要

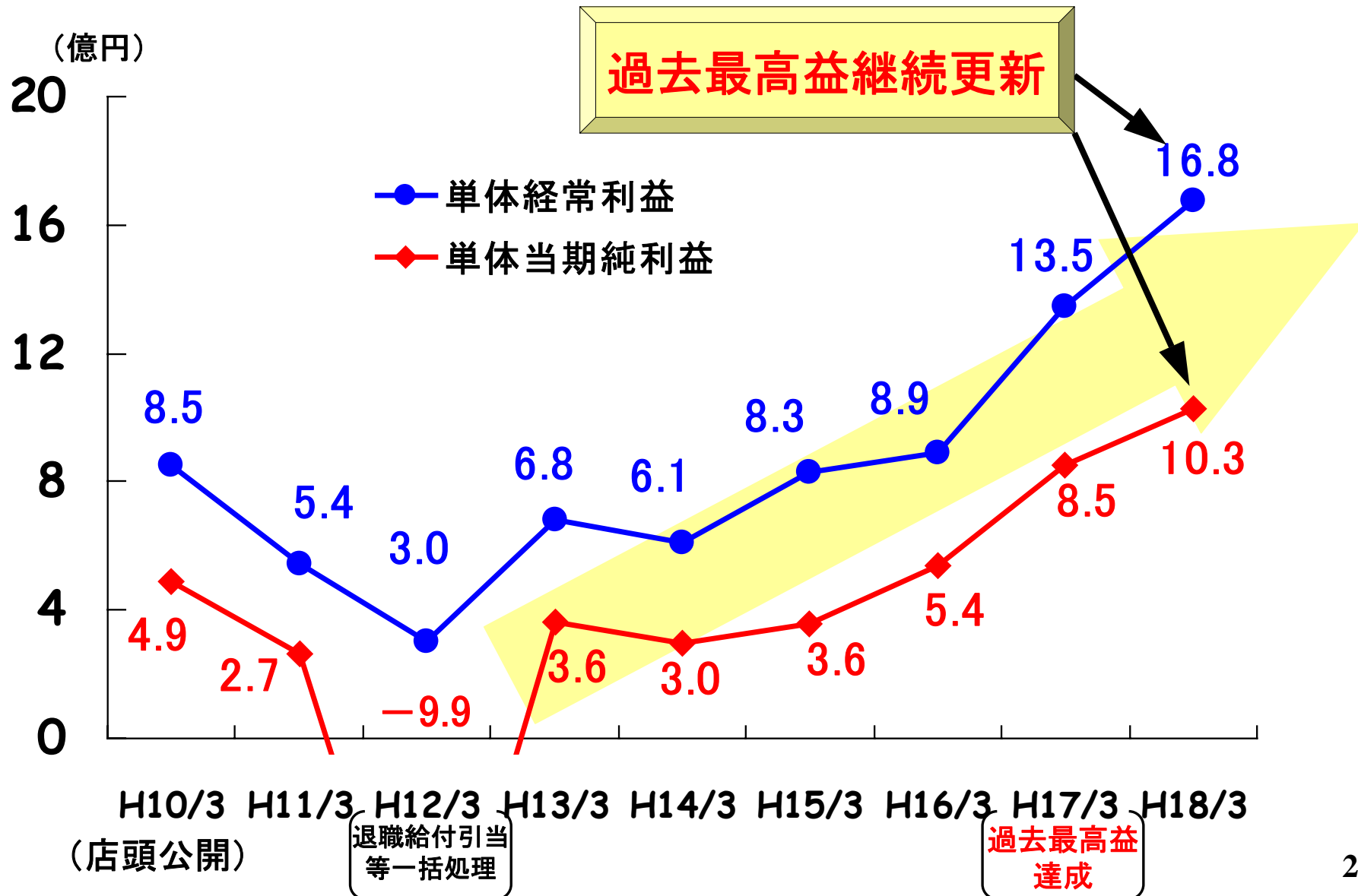
億円

単 体	H17/3	H18/3	増 減
売 上 高	183.0	183.3	+0.3 (+0.2%)
営 業 利 益	13.3	16.4	+3.1 (+23.0%)
経 常 利 益	13.5	16.8	+3.3 (+24.6%)
当 期 純 利 益	8.5	10.3	+1.8 (+21.1%)
総 資 産	159.7	163.5	+3.8 (+2.4%)
株 主 資 本	67.8	78.2	+10.4 (+15.3%)

単体：期末1株当たり利益配当金7円

(中間配当金の5円と合わせ、年間1株当たり配当金12円を予定)

# 經常利益・当期純利益推移(单体)



## IV. 平成19年3月期 業績予想

## 平成19年3月期 市場環境

---

フレグランス → 引き続き微減もしくは減少傾向  
依然厳しい環境

フレーバー → 業界全体の販売金額は、横這い傾向  
ユーザーの価格引下げ要請が厳しく競争  
激化

ケミカル → 合成香料は海外市場が拡大し、輸出が増加  
傾向。  
ケミカルは電子材料市場は拡大傾向、ガス  
着臭剤は横這い傾向。

# 平成19年3月期 業績予想

億円

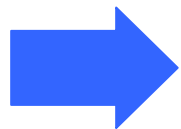
		H18/3	H19/3(予想)	増減率
連結	売上高	185.0	189.0	2.2%
	経常利益	17.2	17.6	2.5%
	当期純利益	10.5	10.9	4.8%
単体	売上高	183.3	187.0	2.0%
	経常利益	16.8	17.3	3.2%
	当期純利益	10.3	10.8	4.9%

# V. 新中期経営課題（平成18～20年度）の 概要

## 事業環境

※事業環境は前中経策定時(16年度)と基本的には変わっていない

- ・高齡化を背景に食生活の充実、「おいしさ」の重視
- ・食の安全・安心および健康志向の一層の高まり
- ・少子化により国内市場は成熟化が進展
- ・グローバル化の進展
- ・価格競争が厳しく、技術力・提案力など益々レベルの高い競争へ



多様化する消費者ニーズへの対応

より付加価値の高い調合用新素材の開発、  
新たな機能性香料製品の開発に特化



## 新中期経営課題(平成18-20年度)

---

### 1) 全社方針

安全・衛生・防災・環境保全、企業倫理等、CSRの推進を最優先課題

### 2) 中期目標：

ユニークで存在感のある香料会社として  
新たなステージへ飛躍

3) スローガン： 「Innovation by Aroma」  
— 香料による新しい価値の創造 —

## 数値目標(平成20年度)

	前中経目標 (H18年度)	実 績 (H17年度)	新中経目標 (H20年度)
経 常 利 益	12億円以上	17.2億円	20億円以上
R O E	10%以上	13.5%	11%以上
R O A	8%以上	10.1%	11%以上
D / E レ シ オ	0.5倍以内	0.4倍	0.4倍以内

\* ROE:株主資本当期利益率 ROA:総資本営業利益率

\* 資本利益率の各資本は期首・期末の平均

# 中期経営課題・施策

## 1. 事業構造改革による事業拡大・収益拡大

### 1) 収益基盤の強化・収益拡大

- ・3部門における各製品、各技術別の強み・弱み解析による選択と集中の徹底
- ・各部門におけるターゲット市場での当社技術の深化、新製品の上市



自社製品比率の向上  
消費者ニーズの高い製品の売上増加

## 2) 事業部門別課題

### ①フレグランス事業部門

国内市場縮小傾向の中、国内外のターゲットを絞り込み、  
効率的事業運営を図る

### ②フレーバー事業部門

営業と研究が一体となった重要分野攻略等による飲料用を  
中心とした既存フレーバーの拡販と  
新規高力価フレーバーの開発、上市

### ③ケミカル事業部門

合成香料のトータルコスト競争力強化、拡販  
電子材料等化成品事業の拡販

### 3) 中国(昆山)事業の拡大

曾田香料(昆山)有限公司の生産・販売体制の強化による  
事業拡大

フレーバー、フレグランス、たばこ用調合香料の拡販



全社プロジェクトを設置

H20年度中国(昆山)事業目標売上高11億円

## 2. 企業体質強化

### 1) 事業体質の更なる強化

前中経の成果を引き継ぎ一層の体質強化に努める

①比例費削減：購買VA、プロセス改善によるコストダウン

②労務費の適正化：各事業部門における要員規模・年齢分布の適正化。

③資本効率化：有利子負債削減

－前中経の成果D/Eレシオ0.4倍(H18/3)以下を堅持

### 2) 人材育成の強化

部課長層の更なる意識改革、第一線営業マンの営業力の強化

これら課題・施策の確実な実施により

ユニークで存在感のある香料会社として  
新たなステージへ飛躍

本資料中の平成19年3月期業績予想、見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

本資料に関するお問い合わせ

曾田香料株式会社

経理部

TEL : 03-5645-7340 (代)

FAX : 03-3668-6289 (代)